

〔学術大会講演録〕

第 10 回学術大会シンポジウム「医療に活かすジェネリック医薬品の情報」より

DI 室の薬剤師からみた後発医薬品の情報

Information on Generic Drugs Considered from the Viewpoint of Pharmacists in the DI Section

若林 進 SUSUMU WAKABAYASHI

杏林大学医学部付属病院薬剤部

Summary : At Kyorin University Hospital, the DI Section plays a central role in considering the introduction of generic drugs. Concerning the trade names of generic drugs, the results of a questionnaire survey of hospital staff indicated that a similar name to that of the original drug was preferred. The results of a survey of pharmacists who have been involved in disaster medicine, however, indicated a preference for using the generic name as the trade name. These results show conflicting attitudes toward the appropriate trade names of generic drugs.

Key words : DI section, name of generic drug, name of original drug, disaster medicine

要旨 : 杏林大学医学部付属病院では、後発医薬品の導入検討を DI 室が中心に行っている。病院内のスタッフに行ったアンケート調査では、後発医薬品の商品名は、先発医薬品と似た名前が好まれていた。災害医療に関わった薬剤師へのアンケート調査では、後発医薬品の商品名は、一般名が好まれていた。これらは相反する考え方であることがわかった。

キーワード : DI 室, 後発名, 先発名, 災害医療

1. はじめに

筆者は杏林大学医学部付属病院（当院）の薬剤部で医薬品情報室（DI 室）を担当している薬剤師である。当院は、東京都三鷹市に位置する病床数 1,153 床、病棟数 33、DPC 導入の特定機能病院である。当院の DI 室では、(1) 医薬品情報管理（医薬品情報の収集、評価、管理、提供）、(2) 薬事委員会（医薬品採用・削除、後発医薬品の選定、副作用報告など）、(3) 病院情報システム（薬品マスタ管理、DWH 管理、HIS 管理委員会など）、(4) 情報連携・情報教育（地域 DI 室との連携、医薬品情報教育、医療情報教育など）などを主な業務としている。これまで当院では、後発医薬品（後発品）の導入検討に関して、DI 室を中心に行ってきた。

本稿では『DI 室の薬剤師からみた後発医薬品の

情報』と題し、筆者の後発品に関連した取り組みを報告する。

2. 医療関係者に対する後発品の意識の変化¹⁾

後発品の導入状況について、数年前 30% 程度であった数量ベースの採用率が、現在は 70% を超えたことからわかるように、施設内の医療スタッフは後発品に関わる機会が、とて多くなってきている。

筆者らは、当院の医療関係者に対して、後発医薬品に対する意識調査を 2 回行っている。1 回目は後発品の導入検討を開始する前年の平成 17 年度に『ジェネリック医薬品の有効性と安全性について』の講演会時（2006 年 3 月）に行い、2 回目は後発品の普及が始まった平成 24 年度（2012 年 10 月）に医薬品安全管理責任者（薬剤部長）が行った『医薬品に関する安全管理』セミナー時に行った。

約 7 年間の意識の差をみるために、この 2 回のアンケートはほぼ同じ内容で行っている。第 1 回目の調査では 225 件（回収率 84%）が回答し、第 2 回

* 〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2
TEL : 0422-47-5511 FAX : 0422-44-0667
E-mail : swaka@ks.kyorin-u.ac.jp